くるり史上初のワンマンツアー
三日で激ヤセ　驚異のキノコパワー
～さよならストレンジャー発売記念ツアー～

スリム・ボディでキミもモテモテに

ヤセた喜びを全身であらわす岸田さん（仮名）

5・13 名古屋ハートランド
開演18:00　当日3,500円（ドリンク込み）
前売り3,000円（ドリンク込み）

5・15 心斎橋クラブクアトロ
開演18:00　当日3,500円（ドリンク込み）
前売り3,000円（ドリンク込み）

5・16 心斎橋クラブクアトロ
開演18:00　当日4,200円（ドリンク込み）
前売り3,700円（ドリンク込み）

5・18 福岡ビブレホール
開演19:00　当日3,675円（ドリンクなし）
前売り3,150円

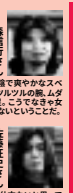
5・20 広島 セキヤマンション
開演18:00　当日4,200円（ドリンク込み）
前売り3,675円（ドリンク込み）

5 売り切れ
開演18:00　当日3,500円（ドリンク込み）

最近、ツイてないと悩んでいる若者が増えたみたいですよね。それもそのはず。現代社会につきもののストレスや睡眠不足、不規則な食生活、さらには重労働する不公にたるまで個人の体調から社会情勢までダウナーな方向へと向かっています。だからといって、すべての人がツイてないわけではないんですよね。そんなツイてる人にはそれなりの秘訣があります。げんをかつぐ、言葉で言ってしまうと簡単なことなのですが、森羅万象、世の中のすべての事象にはバイオリズムがあり、その陽性のバイオリズムをつかむ経験則、それが“げん”なんです。そしてその“げん”を独自の経験則にしたがって音楽に詰め込んだのが くるり なんですよ。だから、今までリリースされた作品『もしもし』『ファンデリア』『東京』『虹』のどれを聴いても、もちろん謎が解けた！なと運が向いてくるのは当然のこと、2枚3枚とアイテムが増えれば増えるほど運も向いて、『もしもし』だけなら宝くじが一万円のところが、『ファンデリア』も持っていれば米俵1俵、といった具合です。さらに、今回発売になった『さよならストレンジャー』は、そんなくるりの、これまで溜めの集大成といった趣なので、その効果もさらに倍。特許出願済みの特殊な低周波育毛器でほぐしてから育毛剤を使用すれば、育毛剤を毛細血管に浸透させることができます。

でも料金などが気になるのですが？ご安心ください。さよならストレンジャー』はわずか3045円（税込）、2枚買っても6090円と良心価格です。さらに『さよならストレンジャー』に併せて5／10より全国でライブも行われます。『三日で激ヤセ　驚異のキノコパワー』と題されたこのツアーは、もちろんプライバシー』を守るために完全です。横になった姿勢がリラックスの重要なポイント。ここで

くるりの幸運をよぶ1stフルアルバム
「さよならストレンジャー」
VICL-60365　¥3,045（税込）from SPEEDSTAR RECORDS

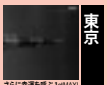

森信行さん（仮名）
くるりのお陽で爽やかなスポスペの秋。ツルツルの肌。ムダ毛のない足。こうでなきゃなはよりつかないということだ。

佐藤征史さん（仮名）
遺伝だから仕方ないと思っていましたが、くるりを聴いてワサワサに。あきらめなくて良かった！

くるりファンクラブに入会すれば……こんなにいいことが！？

知らない人に自慢できる会員証、大いに誇ることも可能な会報、運を呼ぶDMなどラッキーアイテムを発行します。行ってみる価値が大いにありそうなファンクラブイベントなど会員限定の企画も検討中。入会案内書希望の方は80円切手を同封の上、下記の住所までお送りください。

東京


さらに幸運を呼ぶ1stMAXI
NOW ON SALE
¥1,200（TAX IN）
from SPEEDSTAR RECORDS

もしもし

噂のラッキーアイテム!
SOLD OUT
¥1,500（TAX IN）
from BAD NEWS RECORDS

虹

これも幸運を呼ぶ2ndMAXI
NOW ON SALE
¥1,200（TAX IN）
from SPEEDSTAR RECORDS

ファンデリア

もっと幸運を呼ぶインディーズ盤
NOW ON SALE
¥2,000（TAX IN）
from BAD NEWS RECORDS

OKSU　Bad News RECORDS

トータルインフォメーション
（株）バッドニュース　03-3477-2500

150-0043 東京都 渋谷区 道玄坂 1-13-5 MST渋谷3F（株）バッドニュース内　くるりファンクラブ　入会案内書希望係

OKSU新聞 VOL.4

モッくん語録
「スキューバダイビングかな」

『虹』の福岡キャンペーンで取材を受けた時、取材に来たライターさんがかなりルックスのイケてる人で、そのせいかモッくんがやたら饒舌に。そのライターさんから「今後やりたいことは？」と質問された時に出た台詞がコレ。ライブ、レコーディング、キャンペーンと毎日のように顔を合わす岸田君、佐藤君も初めて聞く発言。「モッくんってそんなキャラやったん !?」とくるり関係者内ではその後しばらく波紋を呼んだ。
カッコつけんなよ

●編集：株式会社バッドニュース　東京都渋谷区道玄坂1-13-5 MST渋谷3F TEL 03-3477-2500 FAX 03-3477-1861　担当：藤井秀博、レイアウト：小林ジンク（Bad News）
●発行：ビクターエンタテインメント株式会社　東京都港区北青山3-6-7 パラシオタワー6F TEL 03-5467-5590 FAX 03-5467-6903　スピードスターレコード（制作）　高橋太郎（宣伝）　石田稔

佐藤征史の「大学生日記」

こんにちは、お久しぶりです。プロ野球も開幕し、中日が強そうな今日この頃。桜は満開で、最高の季節を迎えています。大学も卒業し（コラムタイトルは変えない）、僕は散髪して桂三枝風になってがんばってます。さて今回は、現在僕のマイブームである大友克洋さんについて書きたいと思います。大友さんって『AKIRA』の作者なんですけど、今までそのアニメとマンガしか読んだことなかったんですね。でもこの前、BUZZやクイックジャパンでお馴染みの鶴見済が大友さんの作品を僕のイメージとは違う紹介をしていた文を読んで、興味がわいて『童夢』と短編集を読んだんです。そしたらハマっちゃいましたネ。大友さんの作品って近未来SF、ESPの『AKIRA』や『童夢』もいいんですけど、その他の例えばささいなことをおもしろく描くこと、その逆のとんでもないことを自然に、日常的に描く作品もイイんっスよ。ある意味くるりの音楽にもつながる所がある。大友さん自身も音楽が好きそうで、70年代の初めから描いてはるんですけど『クリムゾンキングの宮殿』のジャケット抱えて走ってる奴がいたりタイトルが『ハイウェイスター』など曲名を使ってたり扉絵がマイルスデイビスやったりで、マンガでは流れない音やリズムを曲名やアーティストを使うことでスピード感やスウィング感を読み手にイメージさせてるんですよね。またその選曲というか人選のセンスも凄いっスよ。音楽的にも楽しめちゃいます。でもやっぱり凄いのが絵のセンス。僕『AKIRA』初めて見た時、若い人が作ってんにゃろとか思ってましたけど、実はもう10年以上のキャリアがある時の作品なんですよね。常にフィルムにした時のカット割りを意識しながらのコマ割りなんかは他にないし、あのバイクなんかのセンスも凄いっすよ。早くあの『AKIRA』チックなバイクを発売してもらいたいと思ってる今日この頃でした。

岸田繁の「各停で行きましょう」

みなさんお元気ですか。お久し振りです。俺っちは居を東に移し優雅な生活を楽しんでおります（貧乏）。

そうそう、この間、名古屋でライブをしてきたのですが、そのライブの前に、某FM局のプロデューサーのAさんと、名古屋電車乗りまくりの旅に出掛けました。

名古屋には“名鉄”っちゅう巨大私鉄があるんですけど、全国でも貴重な古いモノレール（ファンデリア付き）や戦前製の高送電車が残っているというサイコーのトレイン王国なんです。

Aさんは俺と互角か、いやそもしかするとそれ以上かも知れないトレイナー（？）で、普段はあまり人と話さない電車の下回りの話（やれ日立製だとか東芝製だとか）の話や、冷房装置の話をして、ライブ前だというのに電車話がテンコ盛りでした。

ちなみにその日は朝の9時に新名古屋駅のホームでAさんと待ち合わせたんですが、俺は2分ほど遅れたんです。それで券売機のところでAさんに電話をしたところ「今、電車が来るから急いで!」との返事。慌てて切符を購入しようとしたところ「今、来てるのはしょーもない車輌やから、ゆっくり来てもええよ」って（笑）。Aさん、また電車乗りまくり、ご一緒しましょう。

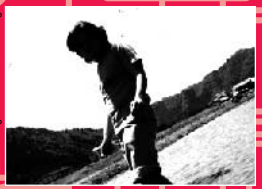
モッくんの「二度は言わんぞ !!」

どうもーお久し振りっ。最近、ほんまに忙しくなって、日本全国を飛びまわってます。が、今回はそんな中で見つけた、各地の個人的にうまいもんを紹介しようかなと思ってまーす。

◎九州……九州は中学校の修学旅行以来かれこれ10年振りやね。熊本県ではとりあえず馬刺が最高にうまかった！馬を食うということにちょっと抵抗あったんやけど、あのワイルドな味がたまらんかったねー。あと、作り立てのからし蓮根は絶品！福岡県では『一蘭』っていうラーメン屋がおもしろかった。もと会員制の店なので、店内に入ると1人1人区切られてて、誰ともしゃべれない（笑）。味は濃さや麺の太さをカードに描いて自由にリクエストできるという、なんか投票所みたいな雰囲気やった。あと『一風堂』っていうラーメン屋もうまかったよ。

◎四国……実は生まれは徳島県なんやけど、今回のキャンペーンでは行かなかったので、徳島の名産はまた今度。高知ではとりあえずかつおのたたきがホンマにうまかった。スーパーのたたきしか食ったことのない僕にとっては、その大きさ、新鮮さ、味、どれをとっても最高 !! 海に近い人って幸せやろーなーと思ったね。あと高知のみなさんに二日酔いに効くといって勧めてもらった『ごっくん馬路村』っていうゆずを原料にしたジュースがあんねんけど、ほんまに効いたよ。あのジュースは全国に売り出してもきっと売れると思うなあ。まだまだいっぱいあんねんけど、それはまた次号で。

「最近、食ってばっかやろ」とみんな思ってると思うけど、ホンマに食ってます（笑）。それじゃね、モッくんでした。



読者の穴

宛先：東京都 渋谷区 道玄坂1-13-5 MST 渋谷 3F
（株）バッドニュース　くるり新聞「ミンチー」読者の穴係

今回も質問を沢山いただき、ありがとうございます。今回はちょっとラジオっぽくインタビュー形式で構成してみました。

●京都市の岩根孝江さん（17）からの質問です。怒ると一番怖いのは誰ですか？
佐藤:オレとかあんま怒んないですからね。
岸田: 俺の1人勝ちって感じですかね（笑）。
佐藤:オレ、生まれてからキレたんって3回くらいですからね。
岸田:でも、モッくんも根性焼きするさかいな（笑）。
森:あれは……
佐藤:モッくんは体罰系のことをするかもしれません（笑）。
森:すいません……（笑）。
●じゃあ、次いきます。向日市の北中忍さんからの質問です。女性のしぐさで好きなところを教えてください。
岸田:なんやろなあ……
佐藤: 耳が好きなんで、かきあげたり……
岸田: 耳のかきあげ一丁!
佐藤:そうそう（笑）。あと剣道部やから…
岸田: 耳カラー丁!
佐藤:（笑）剣道部やったから、面はずして手拭いを取って、ふーってやった瞬間。
森:それ、かなり限定された女性のしぐさやな。
佐藤:それはセミロングとかショートぐらいで、かわいらしい人。
岸田: 俺、結構ケーとなってきてオチる時。
●うとうとした時。
岸田:うん、その時結構、襲いたくなるね。
佐藤: 恍惚しいのは見上げられる目線。
岸田:それはもう弱いな。上目使いとかたまらんな。
森:オレはズボンとかをキュキュキュって上げて、ケツがプリ～ンってなった時が。
佐藤:それまあ（笑）……
岸田: マニアック～。
森: 他は髪の毛いじってる時の、目がなんかドングリ眼みたいになってるのがかわいいです。
●というわけで、みなさんからの質問、どしどしお待ちしております。採用の方には特別なプレゼントが送られます。

トピック

★『虹』のキャンペーンで福岡に行った時、『シティ情報ふくおか』さんの枠ではからいて取材が西鉄の車庫で行われました。くるりの3人はくるり号のモデルでもある1000系の車輌とご対面。とりわけ岸田君は大喜びでした。★今年の1月からスタートし、好評を博していた京都のFM“αステーション”でのくるり初のレギュラー・プログラム『ファール54』が無事終了。即興で曲を作る『音楽のく』やメンバーがくるり号と一緒にリスナーの前に現れる『くるり号を探せ』など思い切った企画を勢いまかせに行っていたわけには何事もなく、無事終了。関係者のみなさん、毎週聴いていてくれたリスナーのみなさん、どうも有り難うございました。★そして今度は、北海道のFM“ノースウェイブ”で4月より新番組（火曜深夜25時～26時）がスタート。タイトルは『ステレオカセットキング』。『キング』というタイトルの曲をみんなで作るコーナーや今まで出せなかったラブレターなんかを読み上げるコーナーなど盛り沢山。乞うご期待。★電車対談から火がついたラブライフとの電車対決ライブ『東西第三軌篇スパーク合戦』が東阪のクアトロで行われ好評を博しました。会場では限定でラブライフの大館君自ら販売する電車Tシャツも大好評。ステージでは岸田君も着てました。★昨年末のQUEに続き、京都は磯磯でもサニーデイサービスとの共演を果たしました。しかも最後にはアンコールで曽我部君と『白い恋人』を演奏するというおまけ付き。また吉祥寺のスターバインズカフェでグレイプバインとライブを行い無事大成功。★また、久々にくるり主催のイベント大回転神社が復活。くるりと共に立命館のサークルで活動していたママスタジヲ、ザ・ハローを始め、くるりの熱烈ファンが高じて出演を獲得したジャカランタン（でも、すごくいいバンド）、そして岸田君がこのバンドを見て、自らバンドを始めたという騒音寺というメンツ。その日のお客さんは普段とはまた違ったくるりが見れたのではないでしょうか。★『さよならストレンジャー』のバンドスコアが発売になります。これを見てくるりのコピー・バンドをやろう!コピーしたらテープを送ってください。メンバーも楽しみにしています。★『ファンデリア』のアナログも発売になります。くるり号の携帯ストラップも発売決定。バンドスコアも含めて、たぶん、ツアーの物販コーナーで買えます。★前号のハイラマスに会ってからエリオットスミス、マーキュリーレヴ、ジムオルークなど憧れのミュージシャンと次々と御対面を果たすくるりが、さらにXTCとも御対面 !? みんなTシャツや上着にサインをしてもらうだけでなく、岸田君はアンディ・パートリッジに食べかけのバナナをもらいました。★もうご存知の方も多いと思うのですが、雪印のマーガリン『ネオソフト』のCMソングをくるりが歌っています。知らなかった人はぜひチェックしてみて。★くるり号が故障しました。噂ではレッカー移動されたそうです。原稿を書いている今現在は修理中ですが、全国ツアーには同行する予定。

第1回チキチキ・モッくんのカレー探訪

TEXT : KAZUO SUZUKI

モッくんのカレー好きについてはみなさんもうご存じかと思いますが、今回のミンチーでは、第1回チキチキ・モッくんのカレー探訪と題して、おいしいと噂のカレー屋さんをモッくんが何軒ハシゴできるか、ライターの鈴木和夫がレポートします。

4月のある日、リハスタでの練習を終えたモッくんが渋谷にある事務所にやってきたのは5時ちょっと前。まずは近場からということで、渋谷は道玄坂にあるムルギー。かつては大槻ケンヂや小沢健二なんかもお勧めしていたというお店。「なんかガムランとか聞こえてきそうな。インドやけどなんか東南アジアっぽい。店に入る前の……匂いでもうキたね（笑）。期待度かなり高し。10段階で8」と評価は高い。モッくんは普通のムルギーカレーを、僕はタマゴ入りカレーを注文。「ご飯の積み方がちょっと富士山っぽい感じ。北壁って感じやな。すごい色してんなあ」カレーの色は真っ黒。「なんでこんなに黒いんやろ？後で店の人に聞こ」とモッくん、まずは色に着目。「でも意外と味はあっさりしてんなあ。辛さはね、イマイチ…」色から辛いものを想像していただけにちょっと肩透かしを食らった様子。でも、そうは言ってもカレー好きのモッくんはムルギーカレーを完食！

ちなみにこの店の名物はゆでたまごの輪切りが入ったタマゴ入りの方。途中、モッくんに薦めてみると「おいしいっすね」と、こちらの方が気に入ったみたい。店を出てモッくんの総評は「辛そうに見えてあんま辛くなかったんで、星は6つ。外観よりちょっと落ちた。敗因は何でそんな色なん？て店の人に聞いても教えてくれなかった（笑）。それとね、ポイントがない。ちょっとどっかで唸らせて欲しかったね。それから、ムルギーのカレーってレトルトに例えたら黒ペッパーカレーと雰囲気が似てる」とのこと。味はもちろんムルギーの方がおいしいけれど、雰囲気だけをヴァーチャル体験したい時には黒ペッパーカレーを。

そして今日の2軒目、神保町は共栄堂。「喫茶店…洋風な感じですね」とモッくん。お店の外見はあまりピンとこない様子で、点数は6点と手厳しい。「こういうお店はシンプルなやつが一番おいしいんでしょう、きっと」ということでモッくんはポークを注文。この店はカレーを注文するとまずコーンポタージュスープが運ばれてくる。味はコンソメスープっぽく、ちょっと薄め。「カレーと一緒にいきたいところですね」とちょっこっと味わう。

カレーが運ばれてくると、僕の頼んだビーフカレーを見て「すごいな、その溢れんばかりの肉」とまず肉にびっくり。ビーフカレーにはかなり大きな角切り肉がいくつも入っている。さっそくカレーを口にしてモッくん一言。「うまい」そしてしばし無言でカレーに没頭する。「辛いけど、嫌らしい辛さじゃない」いかにもな激辛って感じではなく、いい感じで辛さが引き立っている。「日本人向けっていうか、辛いけど結構マイルドな感じです。インドミーツ日本カレーって感じ。でも、おいしいものを食べると無言になりますよね」とモッくんは夢中になって食べる。こんな時になんなんですが、ここのカレーをレトルトに例えると？「……」と見当たらない様子。ビーフカレーも試してみる。「僕は新鮮さから言うとポークかな。ビーフはちょっとアブラギッシュな感じがするけど、ポークはあっさりしている感じがいい」

店内はとりあえず大繁盛。入れ替わりでお客さんが入ってくるのも納得のお味。これからまだまだカレー屋のハシゴロードは続くのにここでも完食 !! おいおい、お腹大丈夫か？と尋ねてみると「腹いっぱい（笑）」との答え。そりゃそうだ。いくら食いしん坊のモッくんとはいえ、2杯ちゃんと食ってんだから。でも、モッくんはそれぐらいお気に入りなので、お店の人にどうしてこんな味になるかをちょこっと聞いてみた。すると粉は一切使ってないとのこと。「独自のトロみ感は家で作ったカレーとは違うからね。おいしいカレーは粉では作るな（笑）！野菜のトロみで勝負しろ！　お店の外見はパッとしなかったんですけど、味は8点くらいいくんじゃないですかね」でも、まだ8点か。モッくん、カレーだけに点数も辛いってこと !?

第3弾は半蔵門にある欧風カレーのプティ・ア・ラ・カンパーニュ。「外観はちょっとブルジョワジーな感じですね」モッくんが日頃は足を運ばなそうな気取った雰囲気のある（笑）お店。ウェイトレスさんのお薦めはビーフとポークということで、モッくんはビーフ、僕が今度はポークをオーダー。甘口、中辛、辛口の中から辛さも選べる。ちなみにメニューにはないが、口が痛くなるくらい辛い激辛もあるとか。モッくんは辛口にチャレンジ。

このお店は注文をすると、まず、蒸したメイクイーン1人前2コが運ばれてくる。この企画が始まってまだ2時間に満たないのにすでに2人のお腹には2人前のカレーが入っている状態。普通なら大喜びのこのサービスも「こうなれば食べるしかないでしょうね」とモッくんちょっと苦笑い。でも一口食べるや「おいしい。ジャガイモじゃないみたい」とくいしんぼうバンザイのように語り始める。「ジャガイモってこんなにうまかったっけ。いきなりイモで感動してしまいましたね」

そして、カレーの登場。「今まで食べてきたカレーとは一線を画す感じやね。ちょっと辛いよ。甘さの中にある辛さというか。果物とかが多く入ってんのかな。ワインとか生クリームとか入ってそうな感じがしますなあ。めちゃめちゃ正統派な味やね」エスニックというよりまさに欧風。「でも、これはこれでおいしいですね。これをヴァーチャル体験したい人はハウスの洋食倶楽部ですね。でも洋食倶楽部はこんな辛くないからなあ……この複雑な味わいはFM大阪の下にある名物のインディアンカレーをイメージしますなあ。一口目は甘いけどほのかな辛さが後から」

この辺りからモッくんのスプーン運びがゆっくりとなって、お腹をなで始める。「この上品な味わいはできればカップルでくるのがいいんじゃないでしょうかね……」モッくんのコメントも結構投げやりになってくる。「おいしいです、おいしいけど大変（笑）。辛さの汗だけじゃなく冷や汗みたいなんも出てきたもんね」モッくんは結局カレーは全部たいらげたものの、ご飯とメイクイーンを残しました。でも、こんな状態でも意外と味を楽しめる。「でも、この状態でまずいカレーはたぶん食えないです（笑）」実際、この店も大人気。入った時はタイミングがよく待たされることもなかったが出る頃にはブルジョワ老夫婦、仕事返りのOLと業界チックなサラリーマンのカップルなどが列を成していました。

「外見は洋食屋さんって感じやったけど、オレかなり期待しましたよ。ちょっと隠れ家的な雰囲気あったから。実際場所もわかりにくかったし。知る人ぞ知るって感じ。この店は味、外見、ともに7点って感じですか」ということで、高得点を出した次はちょっと本場っぽいのに行きましょうか。「けど、足取りが重い（笑）」

4軒目は三軒茶屋のシュンドル・ボン。「毛色が違うから食べれそうかな」と意気込みも十分にお店へ。この店はいわゆるインド料理屋さん。「働いてる人がインド人っていうところからかなりの異味が……」お勧めを聞くとメニューを読み上げてくれた。結局、全部ってことね。このインド人の店員はマメにおしゃべりで、2時間ちょっとの間にカレー3杯をクリアしたモッくんに結構プレッシャーを与える。「ここでは残せないんとちゃうかな……」

カレーはモッくんがチキンホウレンソウのベリーホット、僕はマトンのミディアム、そしてライスではなくてナンを、しかもお腹のことを考えて一杯のかけそばのごとく2人で1枚を注文。「この店に入った雰囲気、スパイシーな匂い、インド人のつたないしゃべり、そういうところを総合すると8点ぐらいいきますね。本場っていう感じがいいね」

なかなか味はおいしいが、ベリーホットを頼んだモッくんは大苦戦。「辛い（笑）。すんげー辛い」ナンとの相性は抜群だがモッくんは「辛い」しか言わない。「3口くらい食ったら芯から汗が出てくる……辛い」。満腹感も臨界点に達してくると話題が味よりも、感覚、辛さとかそういうところに集中してしまう。「辛い、辛い。おいしいよ。おいしいけど、辛い。ベリベリホットは食われへんわ、たぶん。4軒目が一番厳しい」モッくんの食事ペースはかなりスローダウン。もう限界が見えてきている。「胃がビックリしてるやろうな。2時間で4食、全部カレーかよ！て（笑）。しかも4食目でコレ、むっちゃ辛いやんけ（笑）」もう感覚が麻痺して、何しゃべってもおかしそう。「他のお店は辛さをくるんでるって感じやったけど、辛さ丸出し……キツイわあ……この辛さはね…レトルトではね……出しきれてないね…やっぱ本場は……出せないね……」もう声がとぎれとぎれ。5軒目はやはり無理っぽそう。「……おいしいけど……今の状態は……気絶してる人間に……裏拳入れる……みたいな（笑）……点数は…もうわけわからんようになってきてるけど……7点……総合的には共栄堂がやっぱりなあ……かなりええ感じでしたねえ……第1回モッくんのカレー探訪は……この辺で終わりますが……みなさんのお勧めのカレー屋さんがあれば…紹介して…ください……きっと僕は…駆けつけますんで（笑）……第2回は…リクエスト…大会で（笑）……今日は本当にカレーとは…ここまで奥深かったのか……ということを見せつけ…られましたね（笑）……ごめんなさい」

モッくん4軒目リタイア。

くるりの「お店の人とこんにちは」

お店の人とこんにちは、アルバム『さよならストレンジャー』のリリースということもあって、今回は変則的にお店の人の中でも、さらに裏方さん。タワーレコード販売促進部の井上ゆりさんに登場していただきました。お相手は今号大活躍のモッくん。

森:アルバムの反応はどんな感じですか?

井上:前回、このコーナーに出させていただいた小清水なんかは「とにかく素晴しい」って。何回も繰り返し聴くことに染み渡ると。私も素晴しいファーストアルバムだと思っております。

森:ありがとうございます。

井上:内容もバラエティに富んでますよね、こだわりが随所にあって。

森:やっぱり今回も佐久間さんとやらしていただいたこともあって、バラバラだけど一緒みたいな不思議な統一感があるので。

井上:音響派っていうか、いろいろ曲の隙間などにサンプリングされた音も入りつつ統一感もあって、ファーストアルバムにしてはきっちり出来上がった作品ではないですよね。

森:アルバムを作ろうと思って作った曲ばっかりなんですよ。だから作った時期が一緒の曲がほとんどなんで、そういう統一感もあるんだと思います。

井上:それから『虹』のプロモビデオ。TVKとかで個人的には見てたんですけど、最後にジミヘンの格好になるのとか……私、すごいジミヘンドリックスが大好きなんですよ。

森:ちょっとそういう方にはすごい冒涜した感じに映るんじゃないかと(笑)。

井上:とんでもない。驚きと感動が。ライブを何回か拝見させていただいてて、たまに岸田さんフレーズが飛び出るじゃないですか。

森:ギターでたまに熱いソロ弾きますからね。

井上:あれ?て思ってたんですよ。その後に、あのビデオを見て、なるほど、やっぱりと。

森:あんまりそこまで深い意味はないんですけど(笑)。単純にオチをつけたいっていうだけなんで(笑)。ジミヘン崇拝があったら、岸田君、1人でジミヘンやらしてくれって言ったと思うんですよ。3人でやってますからね。

井上:あれはエクスペリエンスってわけじゃないんですね(笑)。初期は結構みんなミッチミッチェルとかもアフロでしたし……

森:そうなんですか(笑)。でもエクスペリエンスやって思ってもらってもいいんですよ、解釈は人それぞれなんで。でも、ジミヘンってわかってもらっただけでもよかったです。

井上:アルバムの『葡萄園』とかジミヘンの音作りにも通じるものがあるじゃないですか。その辺も含めつつ、よかったです。

ディスク・レビュー

"TAGS OF THE TIMES VERSION 2.0J" V.A

今まで俺は素晴らしいヒップホップにめぐり会えていなかったのかも知れないですね。やられました。このコンピには。ヒップホップの良さっていうのは、我々日本人には理解出来ない分野:それは最も黒人文化に根差したメッセージがこめられているという壁があるわけです。でも、理屈はわからないけど、雰囲気で伝わる音楽というものもあるのです。このコンピにおさめられている曲は、基本に忠実でかつタイトでヘビーなトラックにユーモアとアイディアあふれる上物と、大変魅力的なライムが三位一体になったものばかりである。特にAPANI B-FLY EMCEE の、メランコリックなMCと無情感あふれつつユーモアたっぷりのクールなトラックは最高っすね。ヒップホップ嫌い(というか聴かず嫌い)な人にこそ聴いて頂きたい名盤ですね。コレは。(岸田)

"BLACK FOLIAGE" THE OLIVIA TREMOR CONTROL

99年アルバムベスト5に早くも入りそうなオリコンの新作。ホンマにおもちゃ箱をひっくり返したようなアルバムです。それもそのはず、この作品はアニメーションのための音楽というコンセプトで、前作に比べても、この作品の持つ物語のストーリーやイメージを連想させるパワーはキュートで力強いものを持ってます。そのサウンドはテルミンやストリングスが効果的に使われていて、メロディやコーラスはビートルズおいしいトコ取り、そして愛のブライアンウィルソン的コーラスが泣かせます。また前作と同じ27曲入りなんですけど、30秒に満たないインストや効果音的な楽曲がこのアルバムのために全てに意味を持っていて、またそのインストが想像をかきたてるのです。僕的にはファイナルファンタジーやドラクエなどのロールプレイングゲームの旅立ちや挫折、出会いや別れをストーリーにそったアニメにした時の音楽とでもいいましょうか。夢のようなアルバムです。(佐藤)

"EXTRA-ACME" THE JON SPENCER BLUES EXPLOSION

新たな可能性を見せつけてくれたジョンスペの『ACME』のアウトトラック集がコレ。マニーマークが参加した曲を雰囲気に合わねえ〜とアルバムから外してしまうあたりは、彼らの『ACME』にかける気合いが感じられますな〜。確かにどの曲もすんげーカッコいいんやけど、『ACME』を聴いてから聴くと外れた理由がわかります。昔のジョンスペ風の曲なんかはことごとく外されてるもんね。現在進行形の自分たちを見てほしいっていう彼らの意志がこのエクストラ・アクメを聴くとさらによくわかる。それにしても、アウトトラックだけでこんなもん作ってしまうんやから、この3人の今後も期待せずにはいられないね!!(森)